

和歌山市立東和中学校

生徒指導だより

～君たちは未来から「今」を託されている～

No.8 2014.10.6



いじめなくそうデー

10月3日（金）6限は、いじめなくそうデーでした。体育館で、全校のみなさんに話した内容の主旨を掲載します。ふりかえって思い出しながら、もう一度考え、感じてくださいね。

いじめをなくすために、私たちにできること

いじめは、学校だけではなく、世界中、社会全体ですぐに取り組まなければならない問題です。だから、こうして、みんなで、一人ひとりがいじめについて考えることは、とても大切なことです。

いじめに苦しんでいる人がいる今、いじめをなくすために、わたしたちはどうしたらいいのでしょうか。わたしたちには何ができるのでしょうか。

わたしたちにできることは、当事者意識を持つ、ということです。当事者意識を持つとは、自分はいじめに関係している、と思えることです。

マザー・テレサという人がいます。世界中の貧しい人、つらく悲しい想いをしている人のために一生を捧げた人です。マザー・テレサには、その功績により、ノーベル平和賞が贈られています。

マザー・テレサは、

「愛情の反対は、無関心です」

という言葉を残しました。



深刻ないじめは、無関心が生み出しています。たとえば、ほんの小さなからかいの時点で、誰かが「それってマズいんじゃない？」と言えれば、いじめは防げます。でも、無関心でいると取り返しのがつけないことになります。

いじめられている人はもちろん、いじめている人も、関心をもってもらえないなんて、とても淋しいことです。マザー・テレサの言葉で考えてみると、いじめられている人にも、いじめている人にも無関心の反対である「愛情」をそそぐ必要があります。

そこにいじめがあります。

あなたは、人を苦しめ、傷つける、いじめている人ですか。

あなたは、とても苦しく、悲しく、つらい、いじめられている人ですか。

いじめを、周りで、はやしたてる人ですか。

知らなかった、気づかなかったと言い訳をする、見て見ぬふりをする人ですか。

いじめで得をする人は、誰もいません。得するどころか、全員が傷つきます。みなさんは全員、いじめの当事者ですから、無関心ではいけないのです。

みなさんに、マザー・テレサの言葉をもう一つ伝えておきます。

「私たちは、大きいことはできません。

小さいことを大きな愛で行うのです。」